



3 年現代文
「ワスレナグサ」④
星野道夫

教科書

p 1 9 0 ~ 1 9 7

前回内容の確認

アラスカの花の魅力とは何か？



厳しい冬に耐え、短い夏の季節に懸命に咲く美しさ。

花だけでなくアラスカの自然すべてが自分と親しいつながりをもつて感じられる。

隠されたテーマ

限りある生命を生きるということ

第二段落の読解①

＜アリユーション列島の

「ワスレナグサ」＞

アリユーション列島の自然について描写している部分に傍線を引く。

木も生えず、たえず冷たい風が吹きすさぶ自然条件が厳しい土地 p193 1行

そこに咲く花についての描写

苛酷な環境の中で咲く花の美しさは、暖かく光に満ちた南の世界のそれとは一線を画している p193 2行

（一線を画す＝はっきりと区別する）

アリユーション列島の花の群生は過酷な環境の中で咲くからこそ美しい。

とりわけ、そこで見たワスレナグサの姿は忘れられない。 p193 5行

なぜか？

第二段落の読解②

アリユーシャン列島の花の中でなぜ「ワスレナグサ」は特別なのか？

一瞬の夏、その限られた持ち時間の中で一生懸命開花しようとする極北の花々は、ワスレナグサに限らずどれだって美しいのだが……。

P 193 15行

ワスレナグサの描写に傍線を引く。

それは私たちの知っている風に揺れるワスレナグサではなく、岩陰にはいつくばるように咲く、見過ごしてしまいそうな小さな花だった。

P 193 9行

ごく小さく誰にも見られなくても限られた持ち時間の中で一生懸命開花しようとする花だから。

「Forget-me-not」「うぐらしいほど可憐な花」

ワスレナグサが、「荒々しい自然を内包するアラスカの州花であることがうれしかった」のはなぜか？

荒々しい自然の中で、ごく小さなワスレナグサが一生懸命花を咲かせ、そのことを人々が見過ごさず、州花にしているから。